

(3) すこやかな体

◆目指す姿

児童生徒が心身の健康を意識し、積極的に体を動かし、体力向上に取り組んでいます。

◆施策の基本方針

- ①一人ひとりの体力・運動能力の向上を目指し、健康を意識し進んで運動に取り組む児童生徒の育成と教職員の指導力の向上に努めます。
- ②児童生徒の健全な心身の育成、体力の増強及び体育・スポーツ活動の振興を図るため、学校体育関係団体との連携に努めます。
- ③心身の健全な成長を図るため、学校保健の充実に努めます。
- ④望ましい食習慣を身につけ、また安全安心な学校給食の提供を図るため、学校給食を活用した食育の推進と給食用食材の検査体制の充実に努めます。

◆施策の体系

①健康に生活する力の育成

主要事業名	ふくしま子ども体力アップ推進事業						
概要 (PLAN)	幼稚園への専門家の派遣や、小・中学校等の教職員に対する実技指導講習会を開催し、指導力向上と児童等の体力運動能力の向上を図る。						
取り組み内容 と成果 (DO)	<p>○幼稚園児体力・運動能力向上事業 幼児期における運動能力調査を実施し、その分析結果により専門家による体力向上プログラムを作成し、伝達講習会や巡回訪問を実施することで、体力向上と運動不足解消による肥満防止を目指した取組みを行った。 ・参加者数：公立幼稚園・保育所、私立幼稚園 計 25園 48名</p> <p>○児童生徒の運動能力向上事業 新体力テストの結果分析及び小・中学校等の教師に対する実技指導講習会の開催 ・参加教員数：95名</p>						
達成度	指標名	—					
	目標値(目標)	〔身体を動かすことが楽しい〕と感じられる取り組みと教職員の指導力の向上)					
	実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	決算額	299千円	241千円				
評価 (CHECK)	評価の視点	判断の基準			判断した理由		
	必要性	施策体系との整合性	<input checked="" type="checkbox"/> A：整合・貢献している <input type="checkbox"/> B：改善・見直しの余地がある			園児・児童の体力・運動能力を把握し、体力向上を図るため継続的、総合的な取組が必要となってくる。	
		市の関与の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> A：妥当・義務的な事業 <input type="checkbox"/> B：改善・見直しの余地がある				
		緊急性	<input checked="" type="checkbox"/> A：緊急性が高い／優先して実施する必要がある <input type="checkbox"/> B：現時点では必ずしも実施しなくてよい				
	効率性	費用対効果	<input checked="" type="checkbox"/> A：費用に見合う成果がある <input type="checkbox"/> B：改善・見直しの余地がある			各幼稚園、小学校代表教諭へ伝達講習を行い、その教諭が他の教諭へ伝えるため、効率的である。	
		受益者負担	<input type="checkbox"/> A：妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B：改善・見直しの余地がある				
		対象の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> A：妥当である <input type="checkbox"/> B：改善・見直しの余地がある				
有効性	社会環境の変化	<input checked="" type="checkbox"/> A：社会環境の変化に適合している <input type="checkbox"/> B：改善・見直しの余地がある			平成31年度からの幼稚園再編により幼稚園所管のこども未来部への移管に伴いこども未来部の既存事業を含めた事業の体系化を図り市全体での「子ども体力アップ」の取組みが可能である。		
	類似事業との関係	<input type="checkbox"/> A：類似事業はない／あるが統合・連携はできない <input checked="" type="checkbox"/> B：類似の事業があり統合・連携できる					
	廃止・休止の影響	<input checked="" type="checkbox"/> A：影響がある <input type="checkbox"/> B：影響がない					

前年度評価を受けて29年度に取り組んだ事項	<p>幼稚園の事業については、平成28年度は巡回訪問のみであったので、あらためて運動プログラムの伝達講習会を開催し指導上の留意点などの確認を行った。</p> <p>小中学校については、それぞれの講師による事前検討会等を複数回実施して、研修会の内容改善に向けて取り組んだ。</p>					
課題・問題点	<p>体力向上については、肥満防止対策も含め食育指導との関連を図るなど、一つの事業で成果が表れるものではなく、継続的、総合的な取組が必要となってくる。</p>	<p>評価検証委員会の評価</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 課題・問題点が妥当である</p> <p><input type="checkbox"/> 課題・問題点が妥当でない</p>				
課題・問題点に対する改善策(ACTION)	<p>引き続き、児童生徒が「身体を動かすことが楽しい」と感じられる取り組みと指導を実施する。また、肥満予防対策や食育指導との関連を図るなど、継続的・総合的な取組を検討する。</p>	<p>評価検証委員会の評価</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 改善策が妥当である</p> <p><input type="checkbox"/> 改善策が妥当でない</p>				
事業の方向性	評価検証委員会の評価	<input type="checkbox"/> 拡 充	<input checked="" type="checkbox"/> 継 続	<input type="checkbox"/> 縮 小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 終 了
	評価検証委員会の判断理由	<p>子どもの体力向上のためには、保育士や教師の資質向上のみならず、肥満対策・食育指導との関連も求められるが、柱となる事業であり「継続」とする。</p>				
	評価検証委員の意見・助言	<p>①有効な肥満対策、食育指導との連携のあり方、また平成31年度のこども未来部への幼稚園所管移管も含め、本事業のあり方について引き続き検討を進めていただきたい。</p> <p>②「身体を動かすことが楽しい」運動の普及は少しずつ進んでいる。肥満予防対策や食育指導と関連も考慮された事業運営になってきている。今後は生涯にわたって運動が好きな子どもを育てるという観点から、臨界期（発達、定着に適切な時期）をふまえた「運動習慣を育てる取り組み」を要所で指導するなどのメリハリのある事業展開を期待したい。本事業の目的の一つである幼稚園児を対象とした事業では、子ども園の増加による取り組み体制の変化にも留意したい。</p> <p>③肥満の程度、食育の効果、本事業への子どもたちの感想等のデータの累積も有効である。</p> <p>④震災後、子どもたちが成長とともに身体を動かすことの重要性が認識されてきたと思われる。スポーツ少年団の入団年齢が3歳に引き下げられたこともチャンスととらえ保・幼・小・中・高の連携が増したと考えられる。指導者の資質向上も重要。</p>				
	教育委員会の評価	<input type="checkbox"/> 拡 充	<input checked="" type="checkbox"/> 継 続	<input type="checkbox"/> 縮 小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 終 了
	教育委員会の判断理由	<p>子どもの体力向上については、肥満予防対策の観点からも今後も総合的な取組を検討する必要がある、継続とする。</p>				
	評価検証委員の意見・助言に対する教育委員会の検討結果	<p>①市立幼稚園での取り組みを今後本市の幼児の体力アップ事業として発展させた事業のあり方については、こども未来部とも連携し検討していく。</p> <p>②子どもの肥満予防対策の観点からも運動の習慣化は重要となるため、認定こども園の増加による取り組み体制等、こども未来部と検討していく。</p> <p>③体力テストの結果や肥満度の調査等のデータについては事業の効果を判断する上でも必要であるため、今後も引き続きデータを取りながら取り組んでいく。</p> <p>④子どもへの指導の仕方が難しいという現場の声に対して、専門家から指導方法を学ぶことは大変有効であるため、効果的に事業を継続していけるよう検討していく。</p>				

◆施策の体系

②学校体育関係団体との連携

主要事業名	中学校部活動指定事業					
概要 (PLAN)	競技水準が高くかつ実績のある指定部活動に強化練習・交流試合等にかかる経費として1部30万円を交付し、18の競技種目の中から12部を指定し、競技力向上を図る。					
取り組み内容 と成果 (DO)	<p>通常では実現が難しい県外遠征や強化合宿、講習会等を市からの交付金により可能とすることで、競技力の向上を図った。</p> <p>県外遠征では全国レベルの実力を肌で感じ、強化合宿により技術のレベルアップを図る等、競技力の向上に役立った。</p> <p>○主な実績(平成29年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島第一中学校陸上競技部：男子共通4×100mリレー県大会3位、 男子共通4×100mリレー東北大会6位 ・福島第三中学校陸上競技部：女子200m県大会第4位、東北大会出場 ・福島第三中学校バレーボール部：県大会優勝、東北大会2位、全国大会出場 ・北信中学校女子ハンドボール部：県大会3位 ・福島第一中学校剣道部：男子個人県大会5位、東北大会出場 					
達成度	指標名	県大会出場部数				
	目標値(目標)	(指定全校の県大会出場)				
	実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		12部	11部			
決算額	3,600千円	3,600千円				
評価 (CHECK)	評価の視点		判断の基準		判断した理由	
	必要性	施策体系との整合性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 整合・貢献している <input type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある		市からの交付金を受けることで県外遠征や強化合宿、講習会等に参加が可能になり、市立中学校における運動部活動の競技力向上につながっている。	
		市の関与の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 妥当・義務的な事業 <input type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある			
		緊急性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 緊急性が高い/優先して実施する必要がある <input type="checkbox"/> B: 現時点では必ずしも実施しなくてよい			
	効率性	費用対効果	<input checked="" type="checkbox"/> A: 費用に見合う成果がある <input type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある		競技水準が高く、実績のある部活動を指定することで競技力の向上が図られている。	
		受益者負担	<input checked="" type="checkbox"/> A: 妥当である <input type="checkbox"/> : 受益者負担なし <input type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある			
		対象の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 妥当である <input type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある			
有効性	社会環境の変化	<input checked="" type="checkbox"/> A: 社会環境の変化に適応している <input type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある		中体連専門部の意見等を聞いたうえで指定部活動、指定校の選定を行うとともに、県の指定事業と調整を図ることで、中学校段階での競技力の向上に寄与している。		
	類似事業との関係	<input checked="" type="checkbox"/> A: 類似事業はない/あるが統合・連携はできない <input type="checkbox"/> B: 類似の事業があり統合・連携できる				
	廃止・休止の影響	<input checked="" type="checkbox"/> A: 影響がある <input type="checkbox"/> B: 影響がない				
前年度評価を受けて29年度に取り組んだ事項	各種大会等において優秀な成績を収めるため、各種目に中心的な役割を果たす中学校運動部を指定し、より一層の競技力の向上に努め、競技力の維持・定着化を図るほか、福島支部大会の開催経費や上位大会の出場に係る経費の一部支援を継続し、中学校スポーツ活動の促進を図った。					
課題・問題点	少子化等の影響により本市の中学校運動部での活動人数が減少している中、中学校運動部活動の充実を図るため、学校体育関係団体との連携を引き続き継続する必要がある。				評価検証委員会の評価	
					<input checked="" type="checkbox"/> 課題・問題点が妥当である <input type="checkbox"/> 課題・問題点が妥当でない	

課題・問題点 に対する 改善策 (ACTION)	各種大会等において優秀な成績を収めるため、各種目に中心的な役割を果たす中学校運動部を指定し、より一層の競技力の向上に資するとともに、高められた競技力の維持・定着化を図るほか、指導者との連携を図りながら中学校スポーツ活動の促進を図っていく。					評価検証委員会の評価
						<input checked="" type="checkbox"/> 改善策が妥当である <input type="checkbox"/> 改善策が妥当でない
事業の方向性	評価検証委員会の評価	<input type="checkbox"/> 拡 充	<input checked="" type="checkbox"/> 継 続	<input type="checkbox"/> 縮 小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 終 了
	評価検証委員会の判断理由	少子化が進み競技活動に関わる生徒が減少する昨今、生徒・保護者に過重な負担がかかることは望ましいことではなく「継続」とする。				
	評価検証委員の意見・助言	①交付された団体の励みになると思われ評価できる事業である。運動部活動への参加意欲の低下、教育現場の指導者減少問題、教職員の働き方改革などをふまえ、効果的な部活動運営についても学校体育関係団体と連携しながら事例研究していきたい。効果的な取り組み方を普及すべき時期にきている。 ②交付金を交付した団体の現状についてリサーチをしていただきたい。 ③一層の充実のため支援部が少しでも増えることを望む。 ④指定校の増加は当然のことであるが、競技力向上は指導者によるものであることを念頭に進めていただきたい。また、他生徒の励みとなるように広報にも力を入れていただきたい。				
	教育委員会の評価	<input type="checkbox"/> 拡 充	<input checked="" type="checkbox"/> 継 続	<input type="checkbox"/> 縮 小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 終 了
	教育委員会の判断理由	中学校運動部活動の充実と教職員や保護者の負担軽減が図りながら、引き続き中学校部活動の競技力向上と高められた競技力の維持・定着化を推進していくため、継続していく。				
評価検証委員の意見・助言に対する教育委員会の検討結果	①現在12部を指定しているが、指定した多くの部が県大会・全国大会出場を果たしており、今後も事業を継続し競技力の向上を図っていく。また、部活動運営について部活動のあり方検討会において検討するとともに学校体育関係団体と連携しながら効果的な取り組み方について協議していく。 ②指定部活動の実効性を高めるとともに、現状把握について中体連専門部とも協議しながら検証していく。 ③限られた予算の中で実効性を高めるため、現在12部を指定しており、指定校の増加については、中体連専門部とも協議しながら検証していく。 ④指導者の指導力向上を図るため、中体連専門部とも協議しながら検討していく。また、大会等の結果についても引き続き中体連専門部と協議し広報に努めていく。					

◆施策の体系

③学校保健の充実

主要事業名	精神科医等専門医相談事業					
概要 (PLAN)	児童生徒の様々な心の健康問題に対応し、健康教育を充実させるため、精神科医を配置するとともに、必要に応じてその専門医を派遣し、日常的に児童生徒の心身の健康について支援する。					
取り組み内容 と成果 (DO)	市内の小・中学校を5ブロックに分け、各ブロックに1名の精神科医を配置し、スクールカウンセラーや学校担当者との連携を図りながら、心因性の疾患が疑われる児童生徒に具体的な支援を行った。 また、精神科医より養護教諭へ、指導助言を行い、面談・対応方法スキルの向上にも繋がった。					
達成度	指標名	—				
	目標値(目標)	(日常的に児童生徒の心身の健康について支援する体制の確立)				
	実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
		—	—			
決算額	1,054千円	1,054千円				
評価 (CHECK)	評価の視点	判断の基準			判断した理由	
	必要性	施策体系との整合性	<input type="checkbox"/> A: 整合・貢献している <input checked="" type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある			心因性の疾患が疑われる児童生徒に具体的な支援が必要とされる中、精神科医の相談時間の確保や相談の仕方が課題となっている。
		市の関与の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 妥当・義務的な事業 <input type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある			
		緊急性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 緊急性が高い／優先して実施する必要がある <input type="checkbox"/> B: 現時点では必ずしも実施しなくてよい			
	効率性	費用対効果	<input type="checkbox"/> A: 費用に見合う成果がある <input checked="" type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある			精神科医の相談時間の確保や相談の仕方が課題となっている。養護教諭が現場の指導に生かせるような研修のあり方や、精神科医との連絡体制を検討する必要がある。
		受益者負担	<input type="checkbox"/> A: 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある			
		対象の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 妥当である <input type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある			
有効性	社会環境の変化	<input type="checkbox"/> A: 社会環境の変化に適応している <input checked="" type="checkbox"/> B: 改善・見直しの余地がある			子どもの心のケアに関する類似事業の内容との連携のあり方など、今後は事業の内容を見直し、より実効的、有効的な研修事業を検討する。	
	類似事業との関係	<input type="checkbox"/> A: 類似事業はない／あるが統合・連携はできない <input checked="" type="checkbox"/> B: 類似の事業があり統合・連携できる				
	廃止・休止の影響	<input checked="" type="checkbox"/> A: 影響がある <input type="checkbox"/> B: 影響がない				
前年度評価を受けて29年度に取り組んだ事項	多様化、複雑化する健康課題を解決するために、事例発表を基に各校の組織的な対応について情報交換を行い、コーディネーターとしての役割も含めスキルアップに取り組んだ。					
課題・問題点	早期の発見・対応のための養護教諭のスキル向上と、心身の健康問題に対する指導方法など、現場で必要としている知識や対応方法をどのように広めていくかなど、市の施策体系の中での本事業の必要性を検証し研修内容の検討が必要である。	評価検証委員会の評価			<input checked="" type="checkbox"/> 課題・問題点が妥当である <input type="checkbox"/> 課題・問題点が妥当でない	
課題・問題点に対する改善策 (ACTION)	養護教諭の意見を参考に、類似の事業との統合も含め今後の事業のあり方を検討する。	評価検証委員会の評価			<input checked="" type="checkbox"/> 改善策が妥当である <input type="checkbox"/> 改善策が妥当でない	
事業の方向性	評価検証委員会の評価	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 終了
	評価検証委員会の判断理由	心身の健康は成長期の児童生徒には大切なことであり、心理面の問題解決のためにも重要な取り組みであり「継続」とする。				

<p>評価検証委員の意見・助言</p>	<p>①課題・問題点に対する改善策にもあるように、現場の養護教諭とも十分に協議していただき、後継事業について計画していただきたい。</p> <p>②専門医の専門的な知識、判断を必要とし慎重に考えていくべき事例が多い。事業運営のマネジメントも慎重に進めたい。養護教諭の専門性向上の取り組みにはスーパーバイザーからの的確な支援などが不可欠でスキル向上の視点からは課題も多い。養護教諭の専門的スキルとは何かといった基本的な問題も含んでいると思われる。</p> <p>③実質的に専門性の高い方々に診ていただくことが大切である。</p> <p>④精神科医の配置を考えれば予算額は少ないと思われる。存分に力を発揮していただくために回数の増やブロックにおける人員の拡充などが望まれる。また、カウンセラー室の環境整備や養護教諭との連携し訪問回数をふやすなど拡充して継続する必要がある。</p>				
<p>教育委員会の評価</p>	<input type="checkbox"/> 拡 充	<input checked="" type="checkbox"/> 継 続	<input type="checkbox"/> 縮 小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 終 了
<p>教育委員会の判断理由</p>	<p>児童生徒の様々な心の健康問題に対応するため必要であると判断し、継続とする。</p>				
<p>評価検証委員の意見・助言に対する教育委員会の検討結果</p>	<p>①現場の養護教諭と十分に協議し事業のあり方について検討していく。</p> <p>②養護教諭の専門性向上のため類似事業との連携のあり方を検討していく。</p> <p>③市内の小・中学校を5ブロックに分け、各ブロックに1名の精神科医を配置しているが、精神科医との連絡体制を検討する等、専門医に助言をいただける体制の整備を検討していく。</p> <p>④本事業と他類似事業の効果の検証を行い、より有効な事業のあり方を検討していく。</p>				

◆施策の体系

④学校給食の充実

主要事業名	学校給食センター整備事業				
概要 (PLAN)	福島市学校給食長期計画に基づき、給食センターの整備の在り方や単独給食実施校の給食センター化、効率的運営のあり方について一層の推進を図るため、具体的なスケジュールを示しながら、安全・安心な学校給食の向上を図る。				
取り組み内容 と成果 (DO)	平成29年度から西部学校給食センター調理業務の民間委託を実施した。また、新北部学校給食センターの建設候補地の検討を行った。				
達成度	指標名	調理業務民間委託の推進と新給食センターの整備			
	目標値(目標)	(新北部学校給食センター開設 [平成34年度])			
	実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	決算額	46,440千円	96,767千円		
評価 (CHECK)	評価の視点	判断の基準		判断した理由	
	必要性	施策体系との整合性	■A: 整合・貢献している □B: 改善・見直しの余地がある		安全・安心な学校給食の提供を行うため、「学校給食衛生管理基準」に適合した新たな給食センターの整備が必要である。
		市の関与の必要性	■A: 妥当・義務的な事業 □B: 改善・見直しの余地がある		
		緊急性	■A: 緊急性が高い/優先して実施する必要がある □B: 現時点では必ずしも実施しなくてよい		
	効率性	費用対効果	■A: 費用に見合う成果がある □B: 改善・見直しの余地がある		学校給食長期計画実施計画に基づき、計画的に調理業務の民間委託等をすすめることは、経費削減に繋がる。
		受益者負担	□A: 妥当である ■: 受益者負担なし □B: 改善・見直しの余地がある		
		対象の妥当性	■A: 妥当である □B: 改善・見直しの余地がある		
有効性	社会環境の変化	■A: 社会環境の変化に適切している □B: 改善・見直しの余地がある		安全・安心な学校給食の提供を安定的に行うため重要であり、有効性が高い。	
	類似事業との関係	■A: 類似事業はない/あるが統合・連携はできない □B: 類似の事業があり統合・連携できる			
	廃止・休止の影響	■A: 影響がある □B: 影響がない			
前年度評価を受けて29年度に取り組んだ事項	西部学校給食センターの民間委託を開始したが、衛生管理の徹底など受注者と連携しながら安全安心な給食の提供に取り組んだ。また、栄養教諭等と連携し、郷土食を取り入れた献立を提供するなど食育にも力を入れて取り組んだ。				
課題・問題点	新たな学校給食センター整備のための用地の確保が課題となる。また、今後北部学校給食センターの調理業務の民間委託を進めていくが、引き続き衛生管理を徹底するとともに栄養教諭や受注者と連携し安全安心な給食の提供に努める必要がある。	評価検証委員会の評価 ■ 課題・問題点が妥当である □ 課題・問題点が妥当でない			
課題・問題点に対する改善策 (ACTION)	新学校給食センターについては用地の選定を進め、調理業務の民間委託については計画的かつ確実に実施する。	評価検証委員会の評価 ■ 改善策が妥当である □ 改善策が妥当でない			
事業の方向性	評価検証委員会の評価	□ 拡充	■ 継続	□ 縮小	□ 休止・廃止
	評価検証委員会の判断理由	長期計画に基づき、計画的に民間委託を進めるとともに、新北部学校給食センターの整備を行うことは、安全・安心な給食の提供のためにも必須の事業であり、「継続」とする。			

<p>評価検証委員の意見・助言</p>	<p>①献立に郷土食を取り入れる等、食育の観点からも有意義な取り組みがなされている。</p> <p>②本事業については、施設改善、民間委託などハード面から効率化を図るイメージが強い。ハード面の改善にはソフト面（例えば、食の安全、進化している学校給食の運営など）からの検討も必要と思われる。両面からの検討を一層期待したい。</p> <p>③「食の安全」が第一と考えられることから栄養教諭、センター職員の指導の徹底を図るとともに資質向上に努めていただきたい。</p>				
<p>教育委員会の評価</p>	<input type="checkbox"/> 拡 充	<input checked="" type="checkbox"/> 継 続	<input type="checkbox"/> 縮 小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 終 了
<p>教育委員会の判断理由</p>	<p>長期計画に基づき、計画的に民間委託を進めるとともに、新北部学校給食センターの整備を行うことは、安全・安心な給食の提供のためにも必須の事業であり、「継続」とする。</p>				
<p>評価検証委員の意見・助言に対する教育委員会の検討結果</p>	<p>①今後も継続して栄養教諭等と連携し食育の推進に取り組んでいく。</p> <p>②安全安心な給食の提供を第一に考え、計画的に新しい給食センターの整備と民間委託を進めていく。</p> <p>③安全安心な学校給食の提供には、衛生管理の徹底等が重要であり、受注者はもちろんセンター職員や栄養教諭等との連携が不可欠となるため、今後も連携して安全安心な給食の提供に取り組んでいく。</p>				